

護衛艦「いずも」に乗艦し感動！ 海上自衛官になって人の役に立つ仕事がしたい

神奈川県立厚木北高等学校3年 赤間 勇軌



護衛艦「いずも」と高速起動艇



左が本人

6月13日・14日に「よこすかYY乗り物フェスタ2015」が開催され、私は海上自衛隊横須賀地方総監部の基地開放に行きました。基地開放のメインは艦艇一般公開の護衛艦「いずも」でした。

私は初めて「いずも」を見たとき、その船体の大きさに驚きました。乗艦用のタラップを渡って乗艦すると、「いずも」乗員の海上自衛官が丁寧に来艦者へ敬礼を行い、出迎えをしてくれたのがとても印象的でした。乗艦して艦内に入ると格納庫や飛行甲板、それらをつなぐ航空機用エレベーターの大きさに驚きました。なかでも、航空機用エレベーターでは来艦者を載せてのデモンストレーションが行われ、私は大人数を載せて上昇するエレベーターの迫力に圧倒されました。

私はこれまで海上自衛官に対して漠然とした憧れはありましたが、護衛艦や実際に働いている海上自衛官を近くで見ることがなく、初めて乗艦した護衛艦が今回の「いずも」でした。私は「いずも」に乗艦して実際に働いている海上自衛官や護衛艦を見て、今まで以上に海上自衛官になって人の役に立つ仕事がしたいと強く思いました。

私が海上自衛官になったら、自衛官としての責任感や使命感を持って職務に取り組みたいと思います。

P3C 体験搭乗

カレッジ防衛モニター 青木 健史

その機体を私は、否、近郊に住む小学生はB-29だと思っていた。白く輝く翼に4発のプロペラ。小学校高学年で習う戦争の授業の後に校庭の上をその機体を通り過ぎてゆくとき、授業で紹介された写真を想起して誰もがそう思った。実際にそれが海上自衛隊の哨戒機「P3C」であると知ったのは、もう少し後のことである。

私は去る7月の終わり、厚木基地においてその機上の人となった。まさか平日頃地元の上空を飛んでいく哨戒機に乗って、今度は機上から地元を見下ろすことになるのは小学校の自分に言っても信じてもらえないであろう。

地元を高度600メートルという低高度から初めて見た。これまで海岸線から望むだけだった初島を初めて「上空から」見た。何より、海がこんなにも蒼く、広いことを知ったのであった。聞けば、夕日や花火を機上から見ることもあるという。

1日何時間というフライト。危機を見付ける最前線という重圧。激務の裏に、隊員たちを慰める景色に触れることができ、胸が熱くなった。

フライト前には厚木基地の歴史についても触れる機会があった。首都防空の要、小園大佐の抵抗、マッカーサーの来日。厚木は現在、その米軍と共同で使用される。日米双方の戦後が、そこにはあった。

私たちはその見学の合間、特別に管制塔の見学が許可された。天まで続くのではないかと思われる長い狭い階段を上がると、全面ガラス張りの小さな部屋に出た。隊員は責任者らしきヒゲの老3等海尉と3名の曹士の4名だけである。ここで、全ての機の離発着を管理しているとのことであった。

老3尉は私たちに、管制塔から見える航空機を丁寧に解説してくれた。私はその判別力に驚くと共に、解説の合間に向けられる窓の外への真剣な眼差しに、常に滑走路の様子を気遣う仕事に対する姿に感じ入ったのであった。

あとで、その老3尉は、厚木基地がアメリカより返還になった時から管制塔を守り続けている人であると告げられた。あの眼差しは、或はその歴史を見続けている眼だったのかもしれない。